

第3回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1)日 時：令和4年8月18日（木）午後7時より、（教育会館 第1研修室）

(2)参加者：委員（21名）（1名欠席）、事務局9名、報道3名、傍聴11名

(3)内 容

①委員長あいさつ

②協議・報告事項

- ・市民説明会について
- ・新中学校像（案）について
- ・新中学校の校舎（案）について
- ・諸室の機能について
- ・勝高特別教棟（案）について

① 《委員長あいさつ》（省略）

② 《協議・報告事項》

委員長 ・それではレジメにしたがって会を進めたい。まず市民説明会について事務局から説明をお願いします。

（市民説明会について）

事務局 ・今日は出席をいただき感謝。7月下旬から8月上旬にかけて市民説明会を4回開催させていただいた。その時にいただいたご意見とかご要望等について報告をさせていただきたい。どの会場とも約50名程度の方々にお越しいただいた。複数回参加の方もいるが延べ200人程度の参加を得ている。YouTubeで配信をしたが合計で約1200回の視聴回数になっている。この説明会での主な意見質問だが、説明させていただいた内容に関するものとしていくつか羅列で申し上げますと、

①生徒数が減ってより効果的な教育を提供するには1つの学校の方が教育も管理しやすいということか。

②勝高敷地内の立地ではグラウンドなど狭いのではないか。

③建設期間の生徒の学習や部活動に支障はないか。

④同じ敷地内で高校生と一緒に中学生が委縮するのではないか。

⑤中高連携の中身が核でそれがあつての校舎やスクールバスの検討になる。他の中高連携の成果を教えてほしい。

⑥連携型の中高一貫教育は他地域では学校が離れていても実施しているが勝山で同居型にする狙いは何か。

⑦スクールバスの時間や本数、部活動後の運行などが気になる。乗車時間や保護者の送迎の実態などシミュレーションが必要ではないか。

⑧地下通路の建設は絶対か。移動に時間がかかるのではないか。

⑨部活動の選択肢が増えるが勝高でできるのか、正規の教科教員が充足するのかなど十分な検討が必要である。

⑩習熟度授業に対応できる教室数は確保できるのか。

⑪給食は自校給食にしてほしい。

⑫生徒が増えると新型コロナウイルス感染症の予防策など対応ができるのか。

その他として

①再編計画等について、どのように市民の理解と納得を確認するのか。アンケートをとってはどうか。今後の市民への説明はどのように行うのか。

②子どもたちの意見を聞いてほしい。

③再編統合するメリットは何か。背景や目的、費用の面などホームページ等で示してほしい。

④3中学校は維持できないのか。3中学校を残す維持費と新中学校に係る建設費・維持費などの比較を教えてください。

⑤再編準備委員会に意見を伝える方法はどうすればよいのか。

⑥なぜ勝高に建設するのか、説明が不十分ではないか。

⑦もう1年、時間をかけて検討を進めてはどうか。

などの質問や質問をいただいた。

これらについては丁寧に答えさせていただいたつもりである。その模様はユーチューブで視聴できる。また、今回の説明会の内容やご意見とかご要望を踏まえて中学校再編に関する勝山市のホームページの内容を更新した。新たに「中学校再編の目的」「勝山高校の敷地内建設について」「中高連携教育の必要性」「新中学校の特色ある教育」についての説明を追加し、併せて、今ほどご紹介した説明会での意見や質問を掲載させていただいている。Q&Aをこれまでの協議内容を盛り込む形で更新修正させていただいた。また、今月下旬には市議会の全員協議会が開催される予定となっているので、その場においても、同様の報告をさせていただき議員の皆様にもお伝えしたいと考えている。この説明会の内容に関するご意見ご質問は、これまでこの再編準備委員会の部会などで協議している内容が多く含まれていたと考えていて、その検討状況ということで答えさせていただいた。それから昨年度署名活動された会の方からこの秋に二回目の署名活動を実施する予定であるというようにも伺っているが、現時点では市議会や市民の大多数が反対しているという状況ではないと考えており、この再編準備委員会の協議を引き続き進めていく旨、答えさせていただいた。9月議会に向けては、この後の協議を踏まえて後ほどご説明するが、基本計画のたたき台を示していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。報告は以上。

委員長 ・ただいまの事務局からの説明について、何かご質問、ご意見があったらお願いしたい。なければ先に進めさせていただいてよろしいか。それでは次の新中学校の学校像（案）について事務局の説明をお願いしたい。

（新中学校像（案）について）

事務局 ・新中学校の学校像（案）について説明

1. 新中学校が目指す教育
2. 学校づくりの基本理念 目指す学校像
3. 目指す生徒像 3つのC
4. 新中学校における特色ある教育内容

委員長 ・新中学校の学校像について、いろいろな角度から議論を積み重ねてきたという報告があった。資料の終わりのほうにワーキングチームの意見、各部会の意見、その中にもこの新中学校像についてはいろいろな皆さんの積極的な意

見がある。説明がわかりにくいということや、さらにこの辺りはもっと強く書くべきだとか、こういう意見も付記すべきだとか、委員の皆様からご意見をいただければと思う。

- 委員の方から部会などでこの問題についてかなり議論をいただいているので、補足説明とかこういう部分を大事にしていきたいという意見があったらお願いしたい。
- 委員 1
- いくつかの会に入れていただいているのでどの代表とは言いきないが意見を言う。新たなものをするのではなくて、中高連携をするということが頭の中にある。何年後か先にこういうことになったらこんな風にしようではなくて、やれることは今からやろうという思いで4月からいろんな活動に取り組み始めさせていただいている。今のこのままの体制でも充分できることがあって、その辺を少し報告させていただいて、この後どんな風に持っていくといいのかということの参考にしていただければということで発言をさせていただく。まず、中学校の子どもの数が減っていく中で現状でもそれぞれ学校の子どもの数が北部中学校、中部中学校は各学年2クラス、南部中学校は3クラスまたは2クラスと非常に少ない状況になっている。そういった中で、学校に課せられている内容として、学校の教員の業務改善というようなことも非常に大きな一つの課題になっている。保護者の皆さんにあるいは子どもたちに不安を抱えてもらわないようにいろいろな改革をしていくためには、3中が連携して同じ足並みで物事を変えていかないといけない。不揃いの中ではどちらにしてもいろんな不安が出てきてしまう。昨年からはいるがこの4月より具体的に3中の連携を始めさせていただいている。もしいっしょになったとしても子どもたちや保護者に不安を抱かせることがないように形をつくっていければと思う。一緒にすることで大きな改革が進められているというのが現状。もう一つは中高という取り組みの中で申し上げると、高校生の子に中学校に来てもらって、いろんな活動をするを少しずつ広げている。太鼓の日本文化部がそれぞれの中学校を訪問して先輩の姿を見せてくれるとか、いろいろな探究活動のグループが中学校を訪問して子どもたちとの交流をしてくれるとか、そういうことは非常にいい影響が出ているなど考えている。今も勝高の方をお願いしているが、9月の文化祭に子どもたちが探究活動のブースごとの発表のような事をやるのだが、できれば高校生に来てもらってアドバイスをしてもらうことができないか。そこに良いものができてくるといい取り組みになってくるのではないかとということで進めている。ワーキングチームの中で発言をさせていただいたが、勝山の教職員が総出で子どもを育てるという意味で考えると中高だけでなしに小中高と、小学校の教員が何らかの形で関わって、高校の教員が中学校に来てくれるということであれば、場合によっては中学校の教員が小学校に行くとか、小学校の教員で部活動の得意な人が中学校に手伝いに行くとか、いろんな形で総がかりで子どもを育てるというような視点で勝山の教育を作っていく。この議論をきっかけにして進めることではないかなということで模索をしているというのが現状である。質問いただいた内容に答えているかどうかわからないが、現状の現場の学校の校長としては今やれることを探している状況である。

委員長 ・委員の方から補足の説明があった。三つの中学校が同じような新しい動きを一緒にやっていく、生徒や保護者の皆さんにも理解をしてもらって不安を抱かせないような取り組みを始めているという現状の話をいただいた。それから中高の関係でいうと、高校生が中学生に対してさまざまな影響を与えている。最後に中高だけではなく勝山の小中高のすべての学校がいっしょになって総がかりで子どもを育てるという視点でこの議論を進めていった。勝山の教員が総がかりで勝山の子どもたちを育てていくという取り組みを模索しはじめていて、この学校像の中にもそういうものが後ろに実は描かれている。皆さんの方から一言でもいいから書いておいて欲しいとか、こんなところを議論の中で深めてほしいというものがあれば、PTAの方、地域の方、部会に参加してない方も含めてご意見がいただければと思うがいかがか。

委員2 ・3中とはとにかく一緒にやっというに進めているし、南部中学校校区の小中学校が3校あるので、その校区の小中学校でいろいろ考えて一緒にやっというような動きをしている。だから勝山の教員みんなで勝山の子を見ていこうという話は以前から私たちの中にある。それを元にしてこの新中学校を考えていくというのはとても意味があると思っている。

委員長 ・すべての子どもに関わる教員が勝山の子どもたちと一緒に育てていくという考え方、これは勝山の教育のずっと根っこにある部分で、それをもう一度この新しい中学校像の中にしっかりと書き込んでいくこと。これが大事なのではないのかという意見だった。

・今後のたたき台として提示しているので、今後の部会やさまざまな場所で検討いただきながら、またご提示をいただくということで次に進ませていただこうと思う。それでは一応ご提示のものをご了承いただき、今後の検討をさらに進めていくということで、次に新中学校校舎（案）について皆さんと意見を共有していきたいと思う。事務局の説明をお願いしたい。

（新中学校の校舎（案）について）

事務局 ・新中学校の校舎（案）についてご説明する。

（パワーポイントで説明）

○新中学校の校舎はグラウンド北側に建設

- ・ 渡り廊下で高校との接続
 - ・ 職員室など教職員の諸室は中学校校舎に設置
 - ・ 相談室や通級指導室などの教室は必要数を設置
 - ・ 多目的室や図書室（メディアセンター）など、多様な学習スペースを充実
- 理科室や音楽室、美術室、家庭科室は高校の特別教棟に設置。

地下通路

- ・ 学校とジオアリーナを接続する通路として設置
- ・ 上足ラインと下足ラインを設け、内履きでの移動も可能
- ・ 中学校校舎からジオアリーナへの移動時間は3分台
- ・ スクールバス乗降場所に出入口を設置

（航空写真で勝山高校周辺の位置を説明、新校舎の予定地も説明）

基本計画の説明（新校舎ゾーニング（イメージ））

(設計に向けた条件を設定する)

- ・新しい中学校像 ・新校舎配置、動線の検討 ・必要な諸室の機能概要
- ・新校舎の面積の検討 ・事業建設費の想定 ・スケジュール ほか

基本設計の説明(新校舎の具体化)

(新校舎建設に必要な全体図を作成する)

- ・敷地内での新校舎の配置を確定 ・必要な諸室の規模機能の確定
- ・建物内のレイアウトの設定 ・事業建設費の確定 ほか

新中学校校舎(案)の説明

ゾーニング(下の①～⑥の観点を含めて)を説明

- ①昇降口、②動線、③学習環境、④特別教室棟との関係、
- ⑤メディアセンター・多目的室、⑥グラウンド の観点

- ・(検討A案3階建て) 中学校の玄関を新校舎の勝高側(西側)につくる。
- ・(検討B案3階建て) 中学校の玄関を勝高の玄関と背中合わせにつくる。
- ・(検討C案4階建て) 中学校の玄関を勝高の玄関と背中合わせにつくる。
- ・(検討D案3階建て) 中学校の玄関を新校舎のジオ側(東側)につくる。

(多目的室や図書室(メディアセンター)のイメージ例を説明)

勝山高校の玄関を建て替える案を説明

- ・E案(A案:玄関西側)
1階に管理諸室、2階に1学年、3階に2学年分の教室を配置
多目的室を2階、メディアセンターを3階に配置
- ・F案(A'案:玄関西側)
職員室と給食室を中庭側にして各階に各学年の教室を配置
多目的室・メディアセンターを並べて配置し2、3階吹き抜け
- ・G案(B案:玄関背中合わせ)
1階に管理諸室、2階に1学年、3階に2学年分の教室を配置
多目的室・メディアセンターを並べて配置し2、3階吹き抜け

ご意見をいただくことが趣旨となるので、よろしくお願ひしたい。総合的には委員の皆様の評価が高かったのはB案とG案だが決定というわけではない。基本計画に盛り込んで設計の参考にしていきたいと思う。また手元の参考資料やそのほかにもさまざまなご意見やご提案をいただいた。すべてを反映することはできていないが、今後の基本計画の決定や設計に繋げていきたいと考える。事務局からは以上。

- 委員長 ・部会長から補足説明をお願いしたい。
- 部会長 ・施設整備部会のほうで4回ぐらいにわたっていろいろ議論させてもらった。議論の内容としては2班ぐらいに分かれて机の上に大きな図面を置いて気づいたら付箋でどんどん貼っていきこうという形でとにかく意見を出してもらおうということを行ってきた。見えてきたこととしてはこれから中高一貫で新しい勝山オリジナルな教育をやっていくところに限って、教室だけがあればいいのではない。メディアセンターや多目的室が肝になるというのは皆さんの共通意識で、それができるだけ広く取れるようなプランとい

うのは好まれていたのかなと思う。ちょうどこのFプランだが、かなり大きい。普通教室がだいたい70平米ぐらいだとしてもその5.6倍ぐらいありそうな大きさを確保できているので、それだけあったらかなり柔軟な教育ができるのではないだろうかということで、評価になっていたのではないかなと思う。またアクセスの動線はシンプルにまとめたいということ。このB案、G案の評価が高かったのは、中庭を通って行く動線で皆さんの意見が良かった点だった。アクセスがシンプルになるということは管理もしやすいということだし、生徒同士の交流も図りやすいということに繋がるのかと思った。ここからは設計事務所さんのアイデアにも頼るところが大きいと思う。我々でいろいろ案を出して計画したが、今困難であることも設計のアイデア次第で、それをプラスに変えることもできる。例えばA案でグラウンドが狭くなるというところにバッテンが付いていたりとかするが、設計事務所が設計をするとグラウンドを狭くせずにそのプランを作ることもできることも可能になってくる。だから一応方向性というところは出していくが、必ずしもA案がダメという訳ではなくて設計事務所の力によってA案が実はかなり良くなるといった場合もある。我々としては事業の方向性、こういう配置にしたらどれだけの面積が必要になるのか、面積がある程度決まってきたらお金は決まってくる。お金と面積を設計事務所に提示しないと設計ができないという話になるので、まず一旦設計をしてある程度の概略を立てて詳細は設計事務所に投げるといったプロセスを踏んでいると思う。

- 委員長
- このことについて何かご質問があればうけたいがどうか。
- 委員 1
- A案、E案、F案はグラウンド側を通る案だが、反対側が校舎で教室に面している感じになる。そこへ通ってくる生徒が教室の窓側から中が見える位置にあるのが気になる。生徒が通る時に教室にいる生徒が宿題とか勉強しているのが気にならないか。2階、3階から飛来物とかがもしかすると落ちてくる可能性もあるかな。また下校時にこちら側から帰ると今度グラウンド側の部活動をしているものの飛来物が当たる可能性もあるのかなと気になった。B案とか玄関2つに分ける方法がいいのかなと思った。
- 事務局
- 基本計画に盛り込めましたら盛り込んで次の設計に向けて繋げていきたいと思う。
- 委員長
- 子どもの動線の問題は単にスムーズさだけではなくて安全、安心につながる重要な問題があるのではないのかというご指摘。今後のたたき台として検討する重要なポイントになるかと思うので、事務局で検討事項として明記していただければと思う。
- 委員 2
- 地下道を建設するというような話があった。今更少し遅いかもかもしれないが、昨年7月31日と8月27日、勝山地区だけでも2回ほど細かい説明会をしていただいている。各地区10地区すべてでこれは勝山市の第6次の総合計画の中にこの中学校の統廃合が入っているわけだから、説明があった。その時には合同体育館の駐車場をスクールバスの発着場にして、保護者の車はそこからするという話で収まった。それが何の説明もなくいきなりジオアリーナになった。昨年の12月頃まではジオアリーナの地下道の案は一切なかった。梅田前教育長が何とか通すことができないかとそうしたら一週間あとに地下道が3億かけてできるという話があって新聞に出た。地下道は問題があ

るということで教育委員会の方へ電話させていただいた。防犯と防災、安全、安心、これをなぜ元のところでできないのかということ。本当に子どもさんのために何とか元に戻されないかということ。ジオアリーナの駐車場は防災用の駐車場で水が溜まって車のタイヤ半分は溜まるようなそういう工夫がされている。ジオアリーナのために水ためを3ヶ所作ってある。ジオアリーナについては安全安心できるが、地下道となると、用水路が下荒井からずっとあってそれが勝山市内を通過して、そして本町後町は中央用水、それから新大用水はジオアリーナから勝高の裏を通過して長山公園の下をトンネル抜けて猿倉まで抜ける。冬の消雪の水路がある。水路がどうしても片瀬の大岩のところで4年ほど前に水路のマンホールがオーバーフローして、土砂が工場の中に入って今も勝山市へ請求されていると聞いている。昭和町の真ん中に水門があるが、その水門は調整できなくて下流の工場へ水が3、4回入っている。私もそこに工場をもっているがうちの工場の後ろに通って火葬場の中を通過してジオアリーナのカーブを曲がってから勝高の裏を通過していく。心配するのはどうしても水門の調整ができないのでジオアリーナの曲がり角が30mほど開口になっているが、そこから水が溢れる可能性がある。そうすると地下道を通って上がってきたところに水が入ってくる。地下道全部と新校舎まで水が入る。そういうところを吟味して考えていただかないと将来子どものためにならない。それで私は地下道は反対。中学校再編はものすごくいいことで子どもの将来のためにやっていただきたいと思うが、ジオアリーナは環境が違うということだけは考えてもらいたいと思う。

委員長 ・ジオアリーナから新校舎への地下通路についての意見だった。かなり技術的な問題もたくさん含んだ意見だと思うので、今後の検討の中に含めて考えていくことでよろしいか。

委員3 ・提案をしたい。もとに戻してもらって旧合同体育館の駐車場から新校舎へちょうどジオアリーナから降りたところに上がり口があるが、グラウンドからそこへ2mぐらいの風除室、ガラス張りの廊下を玄関口、校門のところへ作ればいい。校舎の中から子どもの動きが全部見えるからそういう工夫を考えてやってもらいたい。こんな地下道は高性能のカメラを100台つけても同じ。子どもどうしがどこでどういう事故が起きるかわからない。カメラをつけたところで校長がモニターを見ているだけで8時間も廊下にたっているわけではない。よく考えてもらわなくては。

委員長 ・代替案として、最初に出ていた駐車場からの案をもう一度検討すべきではないのかという意見。これは事務局の方で今後の検討課題としてお願いしたいと思う。先ほど申し上げたように、基本的には新しい学校の子どもの学びに適したものをきちんと広い面積をとって確保したいということと、動線を中庭に持って行く方が、非常に子どもたちの交流等で今のところはB案G案がいいのではないのかという意見が多かった。この素案の中にはB案、G案を今後のたたきとして提案していくということよろしいか。

(領き多数)

・次は諸室の機能について、事務局の方をお願いしたい。

(諸室の機能について)

事務局 ・諸室の機能についてご説明する。

(諸室の機能についてパワーポイントで説明する)

共通事項

- ・内装の木質化や色彩を工夫し、温かみのある空間とする。 など

普通教室

- ・廊下との連続性を考慮し、一体的な利用ができるように配慮する。 など

特別支援教室

- ・少人数の学習形態に対応でき、可動間仕切りで2室に区切れるフレキシブルな空間とする。
- ・外部からの刺激等による心理的不安定さを考慮した、落ち着いて学びやすい環境に配慮する。 など

図書室

- ・「メディアセンター」として計画する。
- ・書籍を閲覧することやICTを活用した情報学習にも対応する静的空間、活発な議論するグループ学習できる動的空間を配置し、生徒の主体的な学びを支援できるよう工夫する。

多目的室

- ・総合的な学習の活動の場として、個別学習、少人数指導による学習、グループ学習等に対応できる計画とする。
- ・学年集会や学習発表会、作品展示、軽部活動等柔軟に対応できるような空間とする。
- ・複数のプロジェクターの設置を検討する。 など

委員長 ・いろいろな部屋の構成について説明があった。新しい学校像の中に掲げられている新しい学びに適した教育環境をきちんと盛り込んでいくということが強調されていたように思う。グループ学習であるとか、今までの図書館ではなくてメディアセンターというような新しい機能、資料をそこで収集し、資料を使って子どもたちがそこで様々な活動もできるような、今までの図書館という枠を超えた新しい学びができる環境を作っていきたいという提案だったと思う。また特別支援の子どもたち、全国的にもかなりの人数が通常の学校と一緒に学んでいるという子どもたちの教育環境にも十分配慮をした教室空間を創っていくということの提案だった。部会長に補足をお願いします。

部会長 ・これらの意見は事務局が出した意見ではなく、資料のこれまでの意見抜粋を見ていただくと、まず中学校像、2枚目に新中学校校舎について（メディアルーム）と書いてあって、2つ目にICT機器がどこに行ってもしっかり使えるとか、壁面に自由なものをかけるとか、どのスペースを使ってもいろんな学習や探究的な活動を推進できるような環境作りというものがピックアップされてそこに書いてあるというプロセスを踏んでいる。配慮事項として出てきたというのが、各部会で出てきた意見を集約した形というふうに捉えていいのではないかと思う。

委員長 ・事務局から提案があった配慮事項の部分に、ワーキングチームや部会の議論の中で出てきた意見がこの中に盛り込まれている。この問題についてよろしいか。これは議論をずっと積み重ねてきて、今後のたたきとしてさらに検討してよりよいものを作っていくということによろしいか。

(頷き多数)

- ・それでは次に勝山高校の特別教棟に関する事について事務局に説明をお願いしたい。

(勝高特別教棟(案)について)

- 事務局 ・勝山高校特別教棟(案)についてご説明する。

(勝山高校特別教棟(案)についてパワーポイントで説明)

- ①美術室は作品制作の関係上、複数の部屋が必要。
- ②音楽の授業は複数の部屋で授業形態別の仕様も可能、吹奏楽部としての活動場所も併せて検討。
- ③書道室は高校の授業で必要になるが、礼法室を使用していないのでそこへ移動。
- ④コンピュータ室は、高校で情報の授業があり、共通テストにも関係するため必要になるので、他の教室設置も考慮して2階に移動。
- ⑤理科室は高校の物理・化学・生物の実験室のほか講義室を中高共用の探究的要素を含んだ部屋とすることを検討。中学校では最低2つの実験室が必要。
- ⑥調理室、被服室は授業時数が少ないため中高共用で使用。
- ⑦技術室は主に中学生が使用する部屋として検討。

こちらの方については福井県との協議になるので今後も検討していきたいと思う。説明は以上。

- 委員長 ・勝山高校の特別教棟を中学生たちと高校生たちが共通に使ったりして整備をしていく提案だった。補足して説明はあるか。部会等では壁がとれないところがあるということもあっての議論だった。これは高校の校舎だし、先ほどの生徒玄関を建て直す案もあった。県との関係はどのように考えていけばよろしいか。

- 事務局 ・県との協議も今後しっかりと確認して行く必要があるので、この時点では確定という形ではなくあくまでもたたき台(要望)という形の提案になる。

- 委員長 ・県立高校の特別教棟を活用するという部分と、玄関を建て替えて玄関の上にも多目的とか広いスペースを取れるのではないかとこの部分については今後、県との協議がさらに必要になってくる。こういう理解でよろしいか。今後も議論を進めていく前提での中間報告のたたき台として、提示をさせていただくということよろしいか。

(頷き多数)

- ・4月からしてきたさまざまな議論の中で特に先行して進めてきたいくつかのことを、たたき台として市の議会の方に報告させていただくということをお願いしたい。最後に事務局にお願いする。

- 事務局 ・本日までに積み上げてきた議論や今日出たご意見をまとめた上で基本計画のたたき台として作成させていただき、9月議会の方で議員の皆様にお諮りをしたい。その後さらにワーキングチーム会議や専門部会や皆様方にお諮りをしながら最終的な基本計画を作ってまいりますのでよろしくお願いしたい。それでは以上で本日の第3回勝山市立中学校再編準備委員会を終了させていただく。本日はお忙しい中、感謝。

資料1. 新中学校の学校像（案）

資料2. ゾーニング比較表

資料3. 勝山高校特別教棟（案）

参考資料：これまでのワーキングチーム会議での意見抜粋

参考資料：第3回学校運営部会での意見抜粋

参考資料：第3、4回施設整備部会での意見抜粋